

Ⅲ. 臨地實習講義概要

基礎看護学実習1

開講時期

1年次
通年

単位数

1

時間数

45

I. 目的

1. 看護が行われている場や対象を知る。
2. 対象の基本的ニーズを把握し、日常生活を整える方法を学ぶ。

II. 目標

1. 対象の療養環境および生活を知り、看護師の対象とのかかわりを知る。
2. 対象の基本的ニーズを把握する。
3. 対象の看護援助の必要性を理解する。
4. 対象への日常生活の援助技術を学ぶ。
5. 対象との関係の中でコミュニケーションの重要性を理解する

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

看護学概論

看護技術の基本

日常生活の援助

日常生活の援助技術演習

基礎看護学実習2

開講時期

2年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

1. 科学的思考のプロセスを用いて、看護計画を立案し、対象への看護を実施する。

II. 目標

1. 対象との関係を、維持・発展していくことができる。
2. 対象の基本的ニーズを把握し、アセスメントする。
3. 目標を設定し、計画を立案する。
4. 対象への援助を適切に実施する。
5. 対象への看護活動を評価する。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習 1

看護過程の展開

地域・在宅看護論実習

開講時期

3年次
通年

単位
数

2

時間
数

90

I. 目的

1. 地域で生活している人びとの健康レベルや健康課題に応じた、看護活動の実際を学ぶ。
また保健医療福祉チームとして、多機関・多職種との連携および協働について理解できる。

II. 目標

1. 地域で生活している人びとの健康の保持増進・疾病の予防への援助活動を知る。
2. 生活の場で療養している人とその家族を理解できる。
3. 地域で生活している人びとへの看護の実際を知り、地域での看護職の役割を理解できる。
4. 地域包括ケアシステムにおける、保健医療福祉チームの多機関・多職種の役割を知り、連携および協働について理解できる。

実習評価

出席状況、事前学習、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

地域・在宅看護概論

健康障害のある人の看護実習

開講時期	2年次後期	単位数	2	時間数	90
------	-------	-----	---	-----	----

I. 目的

健康障害のある人を理解し、対象に応じた看護を実践する能力を養う。

II. 目標

1. 健康障害のある人を理解できる。
2. 健康障害のある人の看護上の問題を抽出できる。
3. 健康障害のある人の看護上の問題に応じた目標を設定できる。
4. 健康障害のある人に応じた看護が実践できる。
5. 看護活動の評価ができる。
6. 医療チームメンバーの一員としての役割がわかる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

成人看護学概論

老年看護学概論

周手術期にある人の看護実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

周手術期にある人を理解し、対象に応じた看護が実践できる。

II. 目標

1. 周手術期にある人の特徴を理解できる。
2. 周手術期にある人の看護上の問題を抽出できる。
3. 周手術期にある人の看護上の問題に応じた目標を設定できる。
4. 周手術期にある人に応じた看護が実践できる。
5. 看護活動の評価ができる。
6. 保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性を理解できる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習 2

成人看護学概論

老年看護学概論

疾病コントロールが必要な人の看護実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

疾病コントロールが必要な人を理解し、対象に応じた看護が実践できる。

II. 目標

1. 疾病コントロールが必要な人の特徴を理解できる。
2. 疾病コントロールが必要な人の看護上の問題を抽出できる。
3. 疾病コントロールが必要な人の看護上の問題に応じた目標を設定できる。
4. 疾病コントロールが必要な人に応じた看護が実践できる。
5. 看護活動の評価ができる。
6. 保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性を理解できる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

成人看護学概論

老年看護学概論

高齢者を理解する実習

開講時期

2年次
後期

単位数

1

時間数

45

I. 目的

日常生活援助を通して、高齢者に対する理解を深める。

II. 目標

1. 加齢に伴う身体的、精神的、社会的変化をふまえ、高齢者を理解できる。
2. 高齢者に対して関心をよせ尊敬の念を持ち接することができる。
3. 高齢者の看護上の問題を明らかにし、解決に向けた計画を立案できる。
4. 高齢者の加齢変化に応じて、日常生活を整えることができる。
5. 看護活動の評価ができる。
6. 高齢者のすこやかな生活のあり方についての自分の考えを述べることができる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習 2

老年看護学概論

健康障害のある高齢者の看護実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

さまざまな健康段階にある高齢者の看護が実践できる。

II. 目標

1. 健康障害のある高齢者を理解できる。
2. 健康障害のある高齢者の看護上の問題が抽出できる。
3. 健康障害のある高齢者の目標を設定し、計画を立案できる。
4. 健康障害のある高齢者の尊厳や QOL をふまえた看護を実施できる。
5. 看護活動の評価ができる。
6. 保健医療福祉メンバーの役割及び連携の必要性が理解できる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習 2

老年看護学概論

小児看護学実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

小児期にある対象の成長発達段階を理解し、健康障害のある子どもに応じた看護が実践できる能力を養う。

II. 目標

1. 子どもの成長発達段階を理解する。
2. 健康障害のある子どもの看護上の問題を抽出し目標設定できる。
3. 健康障害のある子どもの看護が実践できる。
4. 看護活動の評価ができる。
5. 子どもの安全を守るための援助を理解する。
6. 子どもをとりまく保健医療福祉メンバーの役割と連携の必要性がわかる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習 2

小児看護学概論

母性看護学実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

1. 周産期にある母性の特徴および新生児の特徴を理解し、母性および新生児に必要な看護と保健指導を行うための基礎的能力を養う。

II. 目標

1. 妊娠各期の経過を理解し、妊婦に必要な援助を学ぶ。
2. 分娩の経過を理解し、産婦に必要な援助を学ぶ。
3. 産褥の経過を理解し、褥婦に必要な援助を学ぶ。
4. 新生児の生理的特徴を理解し、母体外生活への適応に必要な援助を学ぶ。
5. 周産期の看護をとおして母性をとりまく保健医療福祉チームの役割と連携を理解する。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

母性看護学概論

精神看護学実習

開講時期

3年次
通年

単位数

2

時間数

90

I. 目的

精神に障害のある人を理解し、精神の健康を回復するための看護を実践する能力を養う。

II. 目標

1. 精神が障害された人を理解できる。
2. 精神が障害された人とコミュニケーションがとれる
3. セルフケア能力を査定し、看護目標の設定ができる。
4. 精神が障害された人への日常生活の援助ができる。
5. 保健医療福祉メンバーの役割を学びチーム連携の実際が理解できる。
6. 精神を障害された人との関わりを通して、自己の振り返ることができる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

精神看護学概論

多職種連携実習

開講時期

2年次
後期

単位数

1

時間数

45

I. 目的

保健医療福祉チームの中での他職種の役割を理解し、多職種連携の意義と看護の役割が考えられる。

II. 目標

1. 病院で働く他職種の役割と活動内容を知る。
2. チーム医療の必要性について考えられる。
3. 多職種連携のための看護師の役割が考えられる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

基礎看護学実習2

統合実習

開講時期	3年次 後期	単位数	2	時間数	90
------	-----------	-----	---	-----	----

I. 目的

チーム医療における看護の役割を認識し、知識・技術・態度を統合して、実務に即した能力を養う。

II. 目標

1. 複数の対象の援助を優先順位を考慮して実施できる。
2. 看護チームのメンバー及びリーダーの役割を理解できる。
3. 患者の24時間の療養生活を支える看護の実際について理解できる。
4. 看護管理の実際がわかる。
5. 様々な対象の状況に合わせた看護技術を習得できる。
6. 自己の課題を明らかにし看護観を深められる。

実習評価

出席状況、実習内容、実習記録、実習態度を総合的に評価する。

学習上の留意点

この科目の受講にあたっては、以下の前提科目の履修が要件となる。

地域・在宅看護論実習	健康障害のある人の看護実習		
周手術期にある人の看護実習	疾病コントロールが必要な人の看護実習		
高齢者を理解する実習	健康障害のある高齢者の看護実習		
小児看護学実習	母性看護学実習	精神看護学実習	多職種連携実習